男女共同参画社会を目指す情報紙

花づな

hanazuna 2012.12

vol. 36

［花づな］

四季折々に咲き競う花々は、精いっぱい自分を自分らしく表現しているように見えます。男女が明るい未来に向かって手をつなぎ合うことを「花づな」の名に託しています。

●学生インタビュー企画●

私たちがインタビューしてきました！

●ウエディングメイク

ヘアメイクアーティスト BIBIKOさん

豊橋を元気にする女性たち

二川校区自治会長 梅岡愛子さん

●二川宿本陣まつり「大名行列」

JA豊橋女性部会長 木田きよえさん

●農業まつり

地域は、家庭とともに私たちにとって最も身近な暮らしの場です。人間関係の希薄化や単身世帯の増加など社会に変化が生じている中で地域の力を高めるには、男女が共に担い、女性も男性も出番と居場所のある地域づくりが不可欠です。私たちの街とよはしには、様々な分野で活躍し、イキイキと輝いている女性が多くいます。

学生インタビュー企画

豊橋を元気にする女性たち

University Student's Interview

分野はそれぞれ違うけれど、豊橋のまちを輝かせるのは、こんな女性たちのパワーかもしれません。愛知大学地域政策学部の学生4人が、今を生きる女性たちに突撃インタビュー。それぞれ自分たちで質問を考え、話を聞き、有意義な時間を過ごしました。

今回、写真撮影を担当しました。アングルに苦労しましたが楽しく撮影できました!（小松将生）

Interviewer

【 BIBIKOさんのプロフィール 】

豊橋出身のヘアメイクアーティストで、豊橋の女性に活力を与えているBIBIKOさん。ヘアメイク以外にも、イベントプロデュースや撮影、DJ、MCなど幅広く活動されています。その活動のすべてがBIBIKOさん自身の刺激となり、エネルギーになっているようです。（高杉芽生）

●ショーメイク

ヘアメイクアーティスト
BIBIKOさん

「妊娠しても子どもがいても、おしゃれで輝く女性でいよう!」

Q ヘアメイクアーティストになろうと思ったきっかけは何ですか?

幼いときから大人の女性に憧れを抱いていて誰かにメイクする仕事につきたいと思っていました。ヘアやメイクで変わる自分をみて変化する楽しみを知り、多くの女性の魅力を引き出して、キレイを提案したい!と思っています。

Q 輝くママがテーマであるグロスママプロジェクトを始めたきっかけは?

私自身、娘の出産を期に感じたことでもありますが、妊娠しても子どもがいても、おしゃれで輝いている女性でいてほしいんです。子育て、仕事、家庭、趣味を楽しみながら、自分磨きをする。そんな頑張る女性とたくさんの情報を共有できる場をつくりたい!と思ったのがきっかけです。

Q「輝くライフスタイルをすべての女性に」というテーマで活動されていますが、BIBIKOさんの考える「輝く女性」とは?

輝く女性とは=自立した女性だと思います。私が仕事をしていて感じることは、実はその人が考えるコンプレックスこそが魅力だということです。最初私なんか…と下を向いていた人がメイクしていくうちに顔をあげて自信を持つようになっていくんです。外面だけでなく内面も輝く人になっていくんです。

Q 子育てと仕事を両立させるのは大変じゃないですか?

子育てと仕事の両立は難しいと思われがちですが、スケジュールと時間の管理に気をつけています。私の仕事の内容を理解してくれている夫のサポートがあるのも感謝です。子どもに対しても、胸を張れる仕事を続けていきたいです。

Q 豊橋でビューティーイベントを企画されていると聞きましたが…。

東京や名古屋で開催されるガールズイベントに負けないような、ビューティーイベントを豊橋で実現したい。そしてそのイベントを通して豊橋の女性、豊橋の街はこんなに元気だということを全国に発信していきたいです。

Q 豊橋の女性へのメッセージをお願いします。

化粧をすることで輝けるのは女性の特権です。ヘアメイクをとおし、変化する自分をたくさん知って、もっともっと女性であることを楽しんでほしいと思います。そして挑戦しつづけること。自分自身のライフスタイルを楽しみ、さらに輝いていってほしいと思います。

Interviewer

【 梅岡愛子さんのプロフィール 】

梅岡さんの地域デビューは、子ども会。そこからPTA婦人部会、社会体育委員会と、さまざまな地域活動に携わってこられました。これまでの活動をベースに、女性初の自治会長として生き生きと活動されています。歴史ある二川で、訪れた人がほっとするような人情あるまちづくりをめざしていらっしゃいます。（佐藤愛希奈）

●二川宿本陣まつり「大名行列」記者発表

「女性たち、気負わないで出ていらっしゃいよ！」

二川校区自治会長
梅岡愛子さん

Q 自治会長になったきっかけは?

最初、女性の会長…?という雰囲気もありましたが、町役員会を開き、そこで推されて会長になりました。町副自治会長として町内のことを細かく知っていたので、すんなり入っていけました。総代会から自治会になり二川も雰囲気が変わってきていたので、抵抗感や不安はありませんでしたね。二川で生まれてずっと暮らしてきましたし、ある人から「女性の自治会長は市に数人いるらしいし、出ていくのはおかしくないで、がんばりなさい」と言われました。地域の方をはじめ、家族の協力も大きいです。

Q 他の地域の自治会では、会長は男性がほとんどだそうですね。

51校区の中で女性の会長は私を含めて二人です。みなさん遠慮しないで(笑)、もっと出てきてほしいと思いますね。

Q 女性と男性とで、性別役割分担を感じることはありますか?

私自身、思い込みがけっこう強いと思っています。同じ文章を読んで男性の意見も聞くと、そういう考え方もあるんだとはっとさせられますね。一方、女性は根幹になっているものが強いですね。いざという時に、さっと動いてくれるのが女性の良いところです。

Q 女性の自治会長が生まれたことで、何か変化はありましたか?

女性だから、男性だからというのは、特にありません。校区の人はみんなとても協力的です。私自身は仕事を楽しく自然にやらせていただいています。楽しさややりがいの方が大きいんです。炊き出しをやりたいと思ったら、女性はぱっと動いてくれます。食べもの関係の発想というのは、やはり女性ならではかもしれませんね(笑)。

Q 自治会をこれからどう活性化させていきたいですか?

自治会は「自分たちで治める会」と書きます。校区の役員全員で協議することを心がけています。「全部自分がしなくちゃ」と思うと、すごく大変です。分担できるものは分担して、もちろん、協力や後押しはおしみません。

Q これからの二川をどう盛り上げますか?

二川は東海道五十三次の三十三番目の宿場町で、本陣･旅籠や商家がきれいに残っているのが強みです。全国から二川を訪れる人たちに、「二川に来たらほっとする」「また来たい」と感じてもらえるような地域にしたいです。

Interviewer

【 木田きよえさんのプロフィール 】

JA豊橋女性部会は、地産地消を意識し、農産物を通して、組合員の家族の健康を重視し、生活に密着したさまざまな活動をされています。女性部会長である木田さんは、コミュニティビジネスや地域貢献から女性の生きがいづくりに取り組んでいらっしゃいます。（石原隆行）

●農業まつり

「農産物を通して豊橋の女性を元気にしたい。」

JA豊橋女性部会長
木田きよえさん

Q そもそも女性部会の成り立ちは?

農家の女性たちは家事と農業ばかりでなかなか自分の時間が持てずにいました。農協婦人会に入会し活動に参加することで女性たちは家を出る機会ができ、仲間ができ自分の時間が持てたのです。

Q JA豊橋女性部会の現在の活動について教えてください。

女性同士の協同活動を通して、明るく豊かな地域社会を作る努力をしています。各種趣味の教室、お料理講習会、味噌づくり、日帰り研修や交流会も活発に開いています。また、地産地消を考え、地元でとれた農産物を使った料理を考案し、ホームページや広報誌、イベントなどで紹介をしています。焼肉のタレやトマトケチャップは家族や友達にとても好評です。さらに最近は、健康寿命85歳運動、世代別活動など、健康にポイントをしぼった活動も行っています。部員数は1400人と、とても多いんですよ。

Q いま話題になっている農産物加工販売トライアル事業について教えてください。

トライアル事業は自分たちが生産している農産物で商品開発をし販売まで手がけることによって地元農産物の消費拡大や女性の活躍の場ができることが目的です。具体的には、皮に米粉を混ぜた餃子やトッピーちゃんゼリーを考案し、市民農業まつりで販売しました。あっというまに完売して、大人気でしたよ。トライアル事業を進めるなかで、これから出てくる女性リーダーの後押しができれば、と思います。

Q 女性部会の活動を通して、木田さん自身の考えは変わりましたか?

JA女性部会から、豊橋女性団体連絡会に参加するなかで、男女共同参画に目を向け、男性の意見を聞きながら、女性も意見を言わなければならないと感じました。ゆっくりですが、だんだん女性の意見が反映されていくような時代になっていると思います。女性リーダーがもっと増えることによって、女性が生き生きと生きられる社会になるといいですね。

インタビューを終えて 学生たちが感じたこと、思ったこと。

はじめての取材&インタビューも無事終了!
4人の学生たちに感想を自由に語ってもらいました。
苦労したぶん、得られたものは大きかったようです。

▶地域リーダーのあり方を学んだ

石原 隆行

「花づな」を通して豊橋の多くの魅力的な方々のお話を伺う機会を得ることができました。その中で、私は「地域のリーダーのあり方」について学んだように思います。

地域のリーダーにとって必要なことは「共同させること」でした。リーダーという言葉を聞いてイメージする仲間の指揮を執るような命令する存在ではなく、同じ目線、同じ立場で接し一緒に歩みながら(進む方向と歩みをそろえる)、人を活かすことができる存在が地域リーダーだと思いました。

これからの地域社会の中で私も主体性を持って活動し、地域の中でリーダーと呼べるような人になりたいと思いました。そのために、今から私自身が地域活動にかかわっていき、その中で実践を通してリーダーとしての姿を学んでいきたいと思います。

最後に、このような機会を与えてくださった方々、取材に協力してくれた方々、お世話になったすべての方々に一言…「ありがとうございました!」

▶これからどう行動するか考えるきっかけに

佐藤 愛希奈

豊橋で活躍する女性にお話を伺ってみると、それぞれの活動のきっかけはさまざまで、まわりに勧められることもあれば、自分から行動を起こしていることもありました。きっかけは違うのに続けていくと、どうやら共通するものが表出してくるようです。それは自分たちの活動に、楽しさややりがいを見つけること。苦労する面や難点がありつつも、それより楽しさが勝るようで、取材中の皆さんの表情は一様にいきいきとしていました。

けれど何をするにもまわりの協力が、男女関係なく必要です。たとえばそれは家族だったり友人だったり、近所の人だったり。男女共同参画という視点でとりわけ女性に注目すると、それが特別なものに見えるような気がしました。まだまだ女性の側に動きにくさがある証拠なのかもしれません。

「花づな」に参加するにあたって、改めて男女共同参画に目を向けるのと同時に、自分がこれからどう行動していくのかを考えるきっかけにもなりました。何かを行う度に緊張や不安を伴いますが、今回取材でお会いした皆さんのように、楽しさを見つけて活動していきたいと思います。

▶エネルギッシュで魅力的な女性と接して

高杉 芽生

今まで「男女共同参画」という言葉を知っていても、その意味について深く考えたことはありませんでした。しかし取材相手の方のことを調べたり、質問内容を考えたりしていく中で、改めて男女共同参画とは何かについて考えさせられました。

今回「花づな」の作成を通じて、豊橋でさまざまな分野で活躍する女性のお話を聞くことができました。取材した方々に共通して言えることは、女性の社会進出の後押しだけでなく、自分たちの地域づくりにもつながる活動を積極的に行っていることです。その姿はとてもエネルギッシュで魅力的です。そしてその快活な人柄によって、家族を含め地域の人たちからいかに信頼されているかがひしひしと伝わってきました。周囲の人とのつながりがあるからこそ、地域全体に活力を与えるような活動ができているのだと思います。

これからも自分たちのまちづくりに積極的にかかわろうとする人が増え、豊橋の女性と豊橋という地域が活気づくことを期待しています。

▶本気の人間になりたい

小松 将生

今回のインタビューで一番心に残った、BIBIKOさんとの出会いから得たことについて書きたいと思います。BIBIKOさんの言葉の一つ一つには説得力があり、人を引き込む魅力がありました。僕はすぐに、この人は自分に自信を持っていてブレない輝く女性だと感じました。

本気で生きる人には、特有の輝きがあると思います。BIBIKOさんと接し、生き方を知るたびに、僕は自分を省みざるを得ませんでした。僕は今まで本気で生きていたか? どこかで生き方に妥協していなかったか? このままで自分は輝く男性になれるのだろうか? 僕は自問自答をやめませんでした。

この出会いを通し、僕は生き方を制限していたのは自分だったということに気がつきました。それから僕はBIBIKOさんのような、本気の人間になることを目標としました。

「花づな」の制作で、たくさんのかけがえのない、素敵な出会いをすることができました。出会った全ての人に感謝をしています。ありがとうございました。

身近な世界で一歩を踏み出す勇気、それが男女共同参画社会の扉を開ける

「男女共同参画社会」というと「遠い世界のこと」と思いがちですが、実は、「男女共同参画社会」は、全ての人が、職場、地域、家庭で生き生きと自分らしく活躍できる社会のこと。ですから、男性にとっても女性にとっても身近な事柄であるはずです。

今回「花づな」に登場した三人は、それぞれ自治会、農協、地域ビジネスという「身近な世界」で活躍している女性たちです。「楽しみながら」続けている活動が、「自分」を元気にし、「周り」を元気にし、そして「地域」を元気にすることにつながっている素晴らしい事例といえるでしょう。

一方、突撃取材に挑戦した4人の学生たち。取材は初体験で「緊張の極み」だったそうですが、これまで「男女共同参画社会」についてはあまり考えたことのなかった「男子」も「女子」も、地域で輝いている「ホンキ」の女性たちに接するなかで、女性の力を地域やビジネスで活かすことの大切さに気がついたようです。

「男女共同参画社会」の形成は一朝一夕には進みません。身近な世界で「一歩」を踏み出す勇気が、男女がともに活躍できる社会の実現につながっていく。そんな気づきと小さな実践の積み重ねこそが大事なのだと、改めて強調したいと思います。

愛知大学地域政策学部教授
今里 佳奈子さん

今里教授には、今回のインタビューで学生たちのサポートにあたっていただきました。

相談窓口がお役に立ちます

豊橋市男女共同参画センター「パルモ」では、女性のための相談窓口を開設しています。

「女性のための悩みごと電話相談」 TEL.0532-33-3098
月～土曜日 午前9時～午後3時(祝・休日、第3月曜日を除く)
その他、パルモ相談員による「女性面接相談」
女性の専門家による「心の相談」「法律相談」があります。
相談の予約・問い合わせ TEL.0532-33-2822

花づな
男女共同参画社会を目指す情報紙 花づなvol.36
発行年月／平成24年12月
発行・編集／〒440-8501 豊橋市役所 市民協働推進課
[ご意見・ご感想をお待ちしています]
電話 0532-51-2188 ファクス 0532-56-5128
E-mail shiminkyodo@city.toyohashi.lg.jp